

LGカウンシルの設立

2004年2月ロゼッタネットの最も新しいグローバルカウンシルとして、ロジスティックカウンシル (LGカウンシル) が発足した。本カウンシルには新しい物流分野のパートナー企業が参加している。

グローバルなサプライチェーンを構築する上で、商品物流に付随した業務の流れの中で、実質的に重要な役割を果たす物流パートナー企業の意見、ノウハウ、技術を、業界横断的な視点で、ロゼッタネット標準の開発、実装に役立てていこうとするものである。

実際に商品を取り扱い、グローバルに動かす上で必要なビジネス情報の流れ、情報の取り扱いを国際標準化し、サプライチェーンを構成する当事者に付加価値を提供していこうとするものである。

益々、国際取引が増大していく中で、業界を横断し、国際的な視点での政府当局との通関等の業務関係、輸送・倉庫業務を、ロゼッタネット標準に取り込んでいこうとする動きは、電子通関などの各国の電子行政構想などと相まって重要な動きとなっている。

04年5月でのカウンシルメンバーは、製造業関連では、シスコシステムズ、ヒューレット・パカード (HP)、IBM、インテル、テキサスインスツルメンツ、STマイクロエレクトロニクス、物流業関連では、APLロジスティクス、

DHL、エクセル、FedEx、Menlo Logistics、UPS、ポートネットシンガポール、ソリューション関連では、クリムゾンロジックの計14社だが、これからも国際的な有力企業が続々と参加するものと期待されている。

本カウンシルの設立の大きなきっかけとなったのが電子通関 (e-Customs Declaration Program) と船積情報管理 (Shipment Notification Management) の2つのマイルストーンプログラムの設立である。いずれも通関当局が絡むものであり、特にアジア地域各国政府の関心が高いところである。

自国への経済投資促進、国際競争力強化、IT化、電子行政推進の国家戦略の立場から、マレーシア、シンガポール、フィリピン、中国、台湾などの各政府が、大きな関心を寄せている。中でも、シンガポール政府機関IDAでは、同カウンシルにカウンシルディレクターを出自させる程に活動に期待している。

更にロゼッタネットではWorld Custom Organization (WCO) とも関係を深めようと接触を強めており、強力な国際企業、国際物流業者の集まりである本カウンシルに賭けるサプライチェーンキーパートナーの期待は非常に大きい。このカウンシルの活動は今後も目が離せない。